

WNJは、「出資・経営・労働を全員で担う」ワーカーズ・コレクティブという新しい働き方を広め、全国のワーカーズ・コレクティブをネットワークする組織です。



ワーカーズ・コレクティブ  
ネットワーク ジャパン

ニュースレター No.67

発行 / ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン

〒156-0044 東京都世田谷区赤堤 4-1-6 生活クラブ生協赤堤館 2F

発行日 / 2026年3月 発行責任者 / 藤井恵里

☎ 03-6265-7382

Eメール info@wnj.gr.jp

HP https://wnj.gr.jp/

## WNJ 半調理品・地元食材 いいもの紹介会

主催：WNJ 食のワーカーズ連携連絡会

3月10日、世田谷区の生活クラブ赤堤館で、食のワーカーズが製造しているものやお互いの仕入れ材など扱っているものを広く紹介しあい、交流を通して食材や情報の交換を行いました。



神奈川のワーカーズは「車麩」は水で戻すと倍の大きさになり、弾力のある食感ですよ...と説明。



各連合会が紹介したい「いいもの」が並びました。人気の高かったのは、埼玉の「ちかえり(ちりめんじゃこ)」、神奈川の「車麩」でした。

当日は食の事業をおこなっている埼玉・千葉・神奈川・東京のワーカーズと仕入れ先のひとつ、生活クラブスピリッツ(株)も参加し、ワーカーズが製造しているものや、独自の仕入れ食材の情報交換をしました。

調理品の試食のほかに、紹介するために持ち寄った干し椎茸、車麩、ちりめんや乾麺、手作りの菊芋やリンゴのチップスなどが並び、その商品についての問い合わせ先や価格の交渉についてなどを確認しました。

リンゴのチップスはすでに仕入れて店頭において販売しているという話や、半調理品を使えば人件費が抑えられ剰余につながっていくことなどを再確認。

自分の所でもこのような会をやってみようと思う、という話も出て盛り上がりました。

日々の事業としてお弁当や惣菜作りを行なっている食のワーカーズでは、昨年からのコメ不足や急激な仕入れ材の高騰で、厳しい経営状況が続いています。協同の力、ネットワークの力で乗り切りたいと思います。



各連合組織が提供した試食品  
埼玉：むすびバーグ・手羽先  
千葉：紅大豆、かぼちゃコロッケ、キャベツメンチ  
神奈川：たかキビメンチ

シリーズ No11

長野編

## ワーカーズ・コレクティブ連合組織から

こんにちは

長野ワーカーズ・コレクティブ連合会は2023年10月に7団体で設立しました。

前身は複数の福祉系団体が集まった「ケアサポートネットワーク長野」という組織で、生活クラブと連携をとりながら定期的に学習会を開催していました。

2023年1月、長野で個別配送が始まるのをきっかけに、配送ワーカーズが創立されワーカーズ運動の見える化ができました。そしてさらに地域に必要な多様なワーカーズの創出につなげていけるよう伴走支援など中間支援組織としての機能を確立し、労働者協同組合法についても知識を深め、広く発信していけるよう連合会の設立となりました。

設立してからはWNJからの多くの情報に驚き、これをどう伝えていけばよいか、何から始めていけばよいか手探りでしたが、まずは「連合会内部で学び、語る人を増やしていこう!」ということになりました。

今年度、全国大会に参加したこと、また「ワーカーズ・コレクティブの価値と原則」の改定案の内容について確認できたことは多くの学びにつながりました。これから学習会開催や伴走支援など、少しずつ機能を積み上げていきます。

現在労働者協同組合を取得した団体は2団体です。長野県にワーカーズ・コレクティブの働き方や労働者協同組合について知る人が増えていくよう活動していきます。



長野ワーカーズ・コレクティブ連合会

〒394-0002 長野県岡谷市赤羽2丁目2-6 生活クラブ長野本部内  
TEL 0266-24-0222 e-mail naganowco@gmail.com

## 新たな独自事業を実現している現場を視察

### 配送受託事業会議報告

配送受託事業会議は月 1 回、北海道から関西までの 10 団体のワーカーズの代表メンバーにより Zoom で開催しています。

会議では近況報告や課題の共有、交流を通じて相互の連携を深め、各ワーカーズは生活クラブとのパートナーシップのもと地域づくりを進めています。

毎月、各ワーカーズから様々な課題や問題点が挙がりますがそれらを共有することで解決の糸口が見つかり、励まし合いながら安心して相談もできる場となっています。それぞれの経験や知恵を持ち寄り、より良い事業運営につなげていく大切な会議体です。

Zoom 会議だけでなくリアルな交流も大切にしています。今年度は企業組合轍(わだち) ケイアッシュ(以下ケイアッシュ)の視察を行いました。全国大会の前日に設定したことで、遠方からも参加しやすい機会となりました。



コールセンターでは配送経験者が受電していることで組合員を理解し情報を多く聞き取ることに繋がっているとのことでした。」

ケイアッシュは生協の配送やコールセンターの業務受託だけではなく独自事業としてお片付け事業、リサイクルショップ「えっさほいさ」を展開しています。代表の田上さん案内のもと、駅前にある店舗を見学。

お片付け事業で回収した日用品たちが丁寧に磨



『リサイクルショップ「えっさほいさ」はお片付け事業から出たものを含めて再利用品として販売しています。ワーカーズ・コレクティブ歩のクッキーも販売しています。』

かれて並び、販売されていました。参加したメンバーも掘り出し物がないかと、興味深そうに店内を見て回っていました。

その後、生活クラブ多摩きた小平センターに移動して、ケイアッシュの歴史や生活クラブとの委託の経緯について代表の田上さんから、お片付け事業設立時の話を「えっさほいさ」店長小野さんからお聞きしました。

さまざまな苦勞を乗り越えながら、配送だけでなく新たな事業を見出し実現しているケイアッシュの力強さに、参加者一同大きな刺激を受けました。

### 各事業に特化した話し合いをしています！

WNJでは福祉・個別配送受託・食の3つの業種別の会議があります。同業種で横のつながりを持ちながら、事業を行う上での共通の課題解決を探る場として定例会議を行っています。

オンラインの普及により全国からメンバーが参加し、業種も形態も様々ななかで情報交換や意見交換を活発に行っています。

## 大震災から 15 年、現場に立って考えよう！

### 第 14 回東日本大震災被災地訪問・交流報告

震災翌年の 2012 年から始まった東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合の被災地訪問は今年で 14 回。2022 年度から WNJ との共催企画で被災地を訪れ交流を重ねています。今回は震災が起きた時期に合わせて行われる追悼や季節感を現地で感じることで何ができるか考える場としました。

今回は 3 月 7～8 日に津波の被害が大きかった宮城県気仙沼市～南三陸町と追悼集会在東松島市を訪問し交流しました。

震災遺構として保存されている気仙沼向洋高等学校、結婚式場の高野会館、野蒜駅では、映像では伝わらない津波の破壊威力を実感しました。牡蠣加工販売の丸壽阿部商店、阿部寿一さん、震災時に被災者の受け入れに尽力されたホテル観洋の女将の「自分の身を守る大切さを生きているから伝えていける、それからどうするか考えることにつながる」また、現地を訪問してくれたことへの感謝の言葉に、普段の生活では忘れてしまうことへの反省と、私たちが知ったことで、次につながるようにしていきたいと思いました。

高橋徳治商店の高橋英雄さんの「何をするのかわからない時は、学ぶこと、考えることから、これをしてみようと思うことが大事」の言葉に、まさにチャレンジを続ける姿そのものだと思います。



ホテル観洋窓辺のウミネコ。震災当時のままの気仙沼市向陽高校の中庭。ガレキだらけの土地の写真は以前の風景を知らない者にとってははいずれも同じ場所のようにも見えます。

悲しみは千差万別なのに、遠くから来た者には悲しさの違いが分からないのかもしれませんが。それでも人の人生を一変させた津波は、日本のどこにでも起こりえる災害。「てんでんこ」に避難する大切さを学びました。



東松島市野蒜地区「復興記念公園」での慰霊祭では、雪の舞うなかミュージカル仕立ての音楽のなか犠牲になった約 1 千人のお名前が、残された家族の思いとともに読み上げられました。途中、参加者も一緒に踊りに参加しました。